



たくましい体と心
生活の自立を目指して

○はやね …低8時・中9時・高10時しゅうしんをめざそう！
○はやおき …目覚まし時計を使って、じぶんでおきよう！
○あさごはん…まいにちたべよう！

みんなちがって みんないい

校長 亀田 親子

童謡詩人の金子みすゞさんが書いた『わたしと小鳥とすずと』の詩は、「みんなちがって みんないい」の一節で締めくくられています。3年生の国語の教科書にも載っているこの詩は、多くの人が一度は読んだり、聞いたりしたことがあるでしょう。特に「みんなちがって みんないい」は、心に残る一節だと思います。この詩では、「私」と「小鳥」と「鈴」はそれぞれの特色の中で、それぞれの価値をもち、それぞれが素晴らしいのだということ、またそれぞれが違うからこそ大切であり、素敵なのだということ力を強く伝えています。

本校は「生命と人格・人権を尊重する態度の育成 ～伝え合い、認め合い、思いやりの心を育む～」を主題に、狛江の教育21研究協力校として2年目となり、特に人権教育を推進しながら全ての教育活動を行っております。650名の児童が在籍していますが、650名の児童一人一人に違った性格・個性があり、その子なりの考え方や生き方があります。長所もあれば短所もあるでしょう。得意なことがあれば苦手なこともあり、特別な教育的支援を必要とする児童もいます。誰一人として同じ児童はいません。みんなそれぞれ違うのです。だからこそ、素晴らしいのです。それぞれの違うよさを出し合いながら、同じ学校に通い共に学ぶからこそ、互いの違いに気づき、認め合ったり、思いやったり助け合ったりすることができるのです。

2学期は1年の中で最も長く、また学校行事においてもみどりンピックや秋の発表会など、学習の成果を発表する機会があります。これからも教職員で力を合わせ「みんなちがって みんないい」と子供も大人も感じることでできる教育活動を展開してまいります。引き続き保護者・地域の皆様の本校への御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

わたしと小鳥とすずと
金子 みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。
私がかからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい
金子みすゞ童話集より